

令和7年度 日南市立油津小学校自己評価及び学校運営協議会委員評価

【4段階評価】 4…期待以上（8割以上） 3…ほぼ期待どおり（5～8割未満） 2…やや期待を下回る（3～5割未満） 1…改善を要する（2割未満）

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価	
							評価	所見
教育課程の工夫・改善	◎PDCA サイクルを基にした教育課程の工夫・改善を図る。	常にPDCA サイクルを意識して教育課程を工夫・改善を行う。	学校関係評価の充実 ・行事ごとの評価 ・学期ごと及び年間の評価 ・学校評価の公表	学期ごとと行事ごとの評価を集計して、次の学期・年度の計画・指導に生かす。	3	学期ごとの評価は、おおむね期待以上の評価であった。各行事についても昨年度の反省をもとに計画することができた。経営ビジョンの具現化という点でさらに行事の効率化を図っていく必要がある。	4	150周年記念式典での児童の姿や5年生の地域学習の姿を見ると教育目標にある「自ら学ぶ児童」の育成がしっかりとされている。反省を生かした活動が実践されている。今後も油津健児の育成に励んでほしい。
			デジタル教材 (AIドリル) の活用	デジタル教材 (AIドリル) を効果的に活用できる職員100%	4	2学期からタブレットの持ち帰りを実施、児童の学習に対する意欲向上につながっている。さらに生成AIの活用による授業改善も進んでいる。	4	参観授業で児童がタブレットを効果的に活用している姿を多く見ることができた。次年度もさらに活用の充実を図ってほしい。
		地域の伝統・文化・人材の活用	地域と一体になって児童への教育効果を高めるための地域人材を積極的に活用	年間計画を見直し、年間2回以上地域人材を活用した教育活動を行う。	4	地域学校協働活動や油津地域協議会との連携を図り、生活科や総合的な学習の時間、社会科等での学年も計画的に実施している。	4	今年度も、地域と一体になった活動が数多く見られた。新聞やニュース番組等によく取り上げられていた。次年度も地域人材活用を進めてほしい。
現職教育の充実	◎現職教育を充実し、教職員のスキルアップを図る。	主題研を中心とした研修の充実	主題研究とその他の現職教育の充実 ・研究内容の充実 ・授業公開の実施 ・授業評価の実施と反省 ・各学力調査の分析を生かした授業改善	一人一回以上の授業公開を行う。※代表授業の実施 ひなたの学びを軸に授業改善に取り組み、学力向上を目指す。	4	一人2回の授業公開や学年部での研究授業を実施することで日々の授業に活かすことができた。また、本校で実施した授業研究会への積極的な参加により授業改善を図った。「日南学びの道しるべ」を活用し具体的な学びの改善点を意識して授業に取り組み、学力向上へとつなげるようにした。	4	先生方が年2回の授業公開をされると聞き、授業改善への意識の高さを感じた。本校で3回の授業研究会も実施されたと聞き、その研究会で学んだことを生かし、油津小学校の児童の学力向上につなげてほしい。
		「OJT」の充実	OJTの充実・各種の研修を活用 ・教科担当を工夫して行うことでOJTを促進	教科主任を中心にOJTを活かした研修を組む。 月2回の学年研修の時に、教材研究を行う。	3	夏季休業中の研修や研究授業をとおして、教職員の資質向上を図った。さらに、生成AIパイロット校の指定を受け、学校全体で生成AIの利活用について研修するとともに、各研究会の代表授業も積極的に受け公開した。月2回の学年研修の中で計画的に教材研究を行うことができたが、単学年も増えてきており取り組み方を工夫する必要がある。	4	授業参観の際に児童の様子を見ると、どの学年の児童も落ち着いて学習に取り組んでいた。これは先生方の前向きな研修への取組が成果となっていると考える。AIチームの先生方も油津小の先生方みんなの力を伸ばすために積極的に研修を組んでいたと聞き、感心するとともに今後も研修に励んでほしい。

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価	
基礎学力の向上	◎学び方を身に付けて、自らの課題を解決する能力を育てる。	基礎学力が身に付く指導の工夫	一単位時間内の定着の時間の確保	単元テストの平均が80%以上をめざす。	3	学級の単元テストの平均点80%以上は達成できているが、個人差が見られる。学習への取り組み方や学びに向かう力への意識は向上しているため、指導を継続し、より一層、意欲の向上を図りたい。	4	児童のアンケートから学びに対して意欲的に取り組んでいることが分かる。その結果が単元テスト80%以上達成につながっている。今後も継続してほしい。
			定着の確認と個別指導					
			校内読書の推進	貸出冊数一人平均60冊読書をめざす。	3	図書委員会の活動や巡回図書司書の訪問、昼休みの図書室開放により、数値目標を達成している。ひなた電子図書の活用と家庭への啓発を進め、家庭での読書も進めていく。	3	図書館の図書は充実しているようである。また学校ではよく本を読んでいるようである。今後は家庭での読書推進も図ってほしい。
家庭学習の充実	◎個に応じた家庭学習の指導を行い、自ら取り組む油津健児の育成を図る。	学習習慣が身に付く家庭学習の指導の充実	【学校の取組】の推進 やるべきことがわかりやすい指導 個に応じた内容の検討 やる気を促す量や内容の工夫 見届けの徹底 【家庭の取組】の啓発 学習環境作り 見届けの徹底	年度初めの参観日等を利用して、学習のきまり等を保護者に説明する機会を設ける。 家で毎日勉強をしている児童90%以上を目指す。	3	宿題は自分から進んで取り組んでいる児童は90%を達成しているが、家庭学習の習慣化にはつながっていない。実態に応じて、個別に指導したり理解度に応じた内容や量を与えたり、家庭への見届け、称賛の願いをしたりするなど、引き続き家庭学習における意欲の向上を図っていく。	3	教職員、児童、保護者のアンケート結果のずれがある項目である。児童クラブで家庭学習を済ませて帰る状況や家庭学習の内容など家庭学習の在り方について整理する必要がある。今後も家庭での見届けや称賛について啓発が必要である。タブレットの宿題については、児童や保護者の反応を継続して把握していく必要がある。
校内での生活態度向上	◎集団生活の中で豊かな心をもった油津健児の育成を図る。	「当たり前」実践指導の充実	「当たり前」実践指導の充実 ・あいさつの指導 ・廊下、階段の使い方 の指導 ・言葉遣いの指導 ・清掃指導	・進んで挨拶をする児童100% ・右一無言の児童100% ・よびすてなし100% ・無言清掃100%	3	無言清掃については、児童、教師ともにしっかりと取り組んでいると自負している。あいさつについては、まだ十分とはいえないが、計画委員会や6年生が中心となっ てあいさつ運動に取り組んでいる。よびすてなしも含めて人権意識の向上に取り組んでいるため、継続して見守り見届けていく必要がある。	3	無言清掃への取組や、登校時のあいさつなどよくなってきていることが分かる。言葉遣いとして、仲が良ければ良いほどよびすてにすることもあるのかもしれない。しかし、学校という公の場ということ考えると今後「さん付け」の言葉遣いを継続してほしい。

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価
校外での生活態度向上	◎主体的に判断し、行動できる自律的な規範意識を育む。	休日や放課後等の生活指導の徹底	休日や放課後等の生活指導の徹底 ・連休前指導の徹底 ・放課後の生活指導の徹底 ・長期休業に関する指導の徹底 ・情報モラルの指導と充実	・交通事故0 ・5時帰宅100% ・お金のトラブル0 ・SNSのトラブル0	3	休日や放課後に交通事故などの大きな問題は起こらなかった。しかし、数件ではあるが公共施設の使い方やお金の貸し借りの問題事案も見られる。全体指導や啓発、個別指導を継続していきたい。 さらに、時期によっては、5時帰宅が十分に守られていない様子が見られる。週末や長期休業前の指導を継続している。	3 数件の問題行動があったと聞いたが、学校はよく指導をしている。今後は保護者もしっかりと児童を見守っていくよう啓発していく必要がある。保護者のアンケートから97%の方が地域で安全に過ごしていると回答しており、地域で児童を見守っていることが素晴らしい。
基礎体力の向上	◎運動に親しみ、自ら体力向上に取り組む油津健児を育成する。	運動の楽しさを実感できる体育科学習の工夫	楽しい体育の授業の充実、達成感・成就感を味わわせ、自己の適正等に応じた運動に取り組むための指導の工夫	授業で30分の運動量を確保する。	4	児童とめあてを共有し、教師が指示や説明を減らすことで、児童の運動量を確保し、指導を行った。運動習慣や運動能力については二極化が見られる状況にあるので、継続して自分にあった運動や楽しい運動を工夫していく必要がある。	4 児童のアンケートから体力向上に励んでいることがよく分かる。学校での体育指導をさらに充実させてほしい。
		体育科外での体力向上	学校生活全体を通じた体力向上 ・外遊びの奨励 ・各種運動月間(持久走、なわとび) ・あぶりんピックの開催	週に3日以上の外遊びを奨励する。	3	よく遊んでいる子も多いが、室内で過ごすことを好む子もいる。家庭での運動に親しむ習慣づくりについても啓発していく必要がある。	4 7月～9月にかけて熱中症予防の観点から外で遊べない時期があったにも関わらずよく遊んでいる。運動に親しませる習慣づくりを継続してほしい。
生活習慣の向上	◎自他の健康に関心をもち、自主的に健康・安全な生活を実践しようとする資質や能力の育成を図る。	生活習慣指導	学級、保健室における常時指導 ・早寝、早起き、朝ご飯の指導 ・歯みがき指導 ・手洗い指導 ・清潔チェック ・タブレット利用時の指導	・朝食摂取率100% ・歯みがきがしっかりできる児童100% ・手洗いがしっかりできる児童100% ・ハンカチ、ティッシュ携帯100%	3	朝食摂取率は90%程度である。朝食はとっていても、内容が気になる児童もいる。給食後の歯みがきを促しているが、歯ブラシ忘れもあり、100%達成はできていない。手洗いをした後、ハンカチを使っていない児童やハンカチ・ティッシュを置きっぱなしにしている児童が少なからずいる。継続した指導が必要である。	3 朝食に関しては児童の問題ではなく家庭の問題であると考え。生活習慣に関する指導と家庭への啓発を継続するとともに、PTAから啓発していく必要がある。
		栄養職員との連携による食の指導	学級活動や総合的な学習の時間、給食指導等における食育指導 ・クラスルーム給食を活用した食育指導 ・「弁当の日」の継続	学期1回クラスルームを活用した食育指導	4	栄養教諭によるクラスルーム給食は予定通り学期1回実施でき、食の指導を充実させた。また、運動会準備や遠足の時の弁当の日を設定し、食に対する意識の向上を図ることができた。	4 栄養教諭を中心にした食育指導が充実している。今後も、児童の実態に応じた方策を講じ、学校、家庭が協力して食育推進が図れるとよい。